

平成24年度総会報告

平成24年度 RKM 総会を6月12日(火)に日本教育会館(一ツ橋)にて開催致しました。新会員86期の参加もあり、46名の方に出席頂き、幅広い世代での交流がみられた賑やかな会となりました。先生1名、旧制2名、24〜50期36名、51〜86期7名(内学生4名)とまだ若手と学生OBの出席が少ない状況ですので、RKM100周年にむけて中心となる世代の参加促進を工夫していきたいと考えています。

総会では、まず久我副会長(36期)から病氣療養中の吉澤会長(32期)の「RKM 会長退任の御挨拶」が代読され、その後幹事会から「平成23年度活動実績・会計決算・監査結果」の報告および「平成24年度活動計画・会計予算・新役員幹事体制」の提案があり、全て満場の拍手をもって承認されました。決算では今年も約62万円の剰余金を残すことができ、その中から現役支援金として20万円を山崎先生(コーチ)に贈呈しました。その他には、昨年度から始めた

インターハイ予選観戦記

一回戦 対都立農産 85期 藤森 翔大
今日は都立農産との試合でした。高三にとって最後の試合ということもあり、試合序盤は緊張感が感じられイージーミスが多く、流れに乗ってなかった。主力の二人が調子が悪く、前半が終わり42-40と拮抗していた。だが3Qからは噛み合っていくプレスからの速攻が鮮やかに決まる場面が何度か見れた。また後輩の力も伸びており、特に17番は高一にも関わらず要所要所で素晴らしいプレイをしており頼もしかった。最終スコアは88-63であったがあいつらの力はこんなものではないと思う。次の芝戦までに2週間あるのでしっかり調整してもらいたい。芝は毎年強いが勝てない試合ではない…むしろ力を出せば勝てる試合である。2週間気持ちを切らさずに頑張ってもらいたい。次の試合が楽しみだ。

二回戦 対芝 86期 上野 拓也
6月3日のIH予選2回戦、武蔵 vs 芝の試合の観戦記を書かせていただきます86期の上野です。僕は京都に住んでいるのですが、今の高校三年生、二年生のみんなには現役の時は大変お世話になりました、何としても彼らの試合を見に行かなくてはと感じていました。そこで、予定のついたこの日に観戦することを決めたのです。試合は序盤苦しい展開でした。相手の守りが冴えたものもありますが、オフenseは常にバタバタ動いていてしっかりしたシュートにいけず、ディフェンスも腰が浮いていて簡単に抜かれるし、シュートチェックも甘く外から点を決められてしまっていました。前半終わって27-41。この時僕は、この調子だと正直厳しいと感じていました。後半、武蔵はマンツーマンからゾーンに切り替えました。これが驚くほど効果的で、相手の外のシュートはほとんど入らなくなり、前半は取られていたリバウンドもしっかりおさえられるようになりました。ディフェンスでリズムをつけた武蔵は、インサイドの万里と守田を中心に得点を重ね第3Q終了時には47-47と追いつきました。第4Qに入って逆転しても武蔵の選手たちは集中力を保ち、ルーズボールへの執着やディフェンスの時の表情からは勝利への意欲が感じられました。その後相手に3点差に迫られたりもしましたが、67-63と逃げ切り劇的な勝利を手に入れました。勝利はしたものの、やはり問題点は多かったと思います。立ち上がりの集中力はもちろんですが、特に僕が感じたのは試合終盤のことです。3点差に迫られてからは1点でも欲しいという場面で、フリースローの成功率が悪すぎました。あのような場面でも焦らずに決めることが出来れば、もう少し余裕をもって勝つことができるだろうと感じました。しかし、何にしても勝つことができ良かったし、観戦していた僕にとっても興奮する大変面白い試合を見せていただきました。大学生活を始め早くもたるみ始めていた僕も、やる気とか諦めない気持ちとかを思い出させてもらった気がします。現役の勝利のために応援する武蔵バスケット部OB

三回戦 対都立文京 35期 中山 義信
この試合は全体を通して接戦の連続だったが、惜しいところで武蔵にミスが出たりして、概ね文京がリードを保つ経過を辿った。武蔵のディフェンスはマンツーマンとゾーンを時々切り替えて戦い第1Qは武蔵9番のゴール下での落ち着いたプレーもあったが、16-20で文京に4点リードされて終了。第2Qでは、武蔵5番の好プレーが光り、フリースローもしっかり決めて追撃。前半終了時は32-32の同点まで追い上げた。しかし後半、武蔵のディフェンスがマンツーマンの時にうまく攻められて、第3Q終了時は44-54と10点差までリードを広げられた。第4Qに入り、武蔵は試合の前半で効果的だったゾーンディフェンスに戻して追撃を開始、残り時間1分48秒であと5点差まで追ったがフリースローの確実さの差が出たりして、結局最後にリードを広げられ、58-73で敗戦となった。体格的にも多少文京の方が大きかったが、武蔵は負けずに頑張っていたし、体力的にも武蔵は最後まであきらめず走りきっていたのは、大変すばらしかった。多少劣っていた点はゴール下での確実さ、フリースローの確実性、中距離シュートの成功率であり、各面での少しづつの差が敗戦につながったように思われる。但し、昔の話をしても仕方がないが、4年間に3回インターハイを制したところとか、私が高3の時やさい、東京大会優勝、関東大会優勝、インターハイ準決勝進出を果たしたりしたが、当時はいざという時にはオールコートゾーンプレスに切り替え、瞬間に逆転したり、リードを広げることができたことを考えると、今年のチームにはオールコートプレスを使えるところまでレベルが達していなかったのが、無いものねだりではあるが、大変悔しかった。当時は週3回のみ練習であり、現在でも工夫次第で、ディフェンスの面でも、もっとレベルアップを図れるのではないかとというのが正直な感想です。ところで驚いたことには文京高のほとんどのプレーヤーがボールを受ける時の足の切り方が遅く、片足がまだコートに残っている状態でボールを受け、その後ジャンプして着地してからビョットを開始しており明らかなトラベリングであった。武蔵にも多少こういうプレーヤーはいたが文京高のトラベリングは全くひどいものだった。コーチの山崎先生に聞くと、今や東京のバスケットの審判の多くは、この形のトラベリングはとらない傾向が強いとのこと。嘆かわしい限りだと思う。かなりショーマン的な面の大きいNBAならいざ知らず、日本の高校のバスケットでは許されるものではないと思う。一方今回の試合で武蔵のプレーヤーがトラベリングとは言い切れないレベルの多少怪しいプレーをした場合には審判は安易に笛を吹いてしまう傾向があり、特に終盤にその傾向が強かった。今回の敗戦は、ある意味でも未熟な審判に負けたということもできるかも知れません。

の一体感も、初めて経験しましたが本当に素晴らしい、改めてバスケット部に入って良かったと感じさせてもらいました。

しすぎて点を取りにくい姿勢に欠けていました。逆に相手は身長のあるポストプレーヤーを起点にセットプレーを多用してきて、出遅れる形になりました。しかし2QではこちらはゾーンDFに切り替え、相手のセットプレーを封じるとともに、オールコートプレスでも相手をひっかけはじめ、前半終了時には同点に追いつき振り出しに戻しました。ここからだと思ったのですが、PGのファウルトラブル、エースFWの捻挫などが続き勢いに乗れず、最終的に22点差で試合終了となりました。攻守共に実力を発揮しきれず、本当に悔しい試合でした。この一年間の間に練習に来てくださったり、当日も応援に来てくださったOB、先輩方、後輩のみんな、ほんとうにありがとうございました！とともに申し訳ないです。一年間やって思ったことは、もちろん多々あるのですが、いちばん大きいのは、ハートを教えるのが一番難しいということでした。今年の中三はみなセンスもいいスキルもかなり高水準でした。教えたことの呑み込みが早いし、走力もあります。前回の大会で区内ベスト3の大泉学園に8点差の試合をした時点でそれは確信できました。それでもどうも勝てきれない、流れを引き寄せきれない、自分たちでゲームをコントロールする力が弱い、そのような点を課題として最後の大会にむけて意識づけて練習してきました。

キャプテンの不在、ベスト8の相手、まさに気持ちがすべてを握る状況での一回戦でした。そこで勝てなかったことは本当に悔しいですが、この悔しきは僕以上に選手が感じていると思います。その気持ちこそが、彼らのハートをきくと成長させると思います。そして高校で本領を発揮してくれることでしょう。僕も選手たちから多くのことを学んだり感じたり、本当に大切な時間を過ごさせてもらいました。これからも成長し続ける彼らの姿を見守っていきたいと思います。みなさんまた高校の応援に行きましょう！そして中学からさらに強くするために、学生OBは中学練に行き指導のお手伝いもしてあげてください。よろしく願います。

- 高校試合結果
【新人戦(第四支部)】
2011年10月23日
武蔵●71-95都光丘
【関東大会予選(Bブロック)】
2012年4月22日
武蔵○142-37都第四商
2012年4月29日
武蔵○91-63都保谷
2012年4月30日
武蔵●68-94日体荏原
【インターハイ予選(Cブロック)】
2012年5月20日
武蔵○88-63都農産
2012年6月3日
武蔵○67-63芝
2012年6月10日
武蔵●58-73都文京
(ベスト64)

- 中学試合結果
【新人大会】
2011年10月16日
武蔵○82-38大泉校中
2011年10月23日
武蔵●32-84開進一中
【春季大会】
2012年4月15日
武蔵○43-32東大附属
2012年4月22日
武蔵●57-65大泉学園
【選手権大会】
2012年6月17日
武蔵●41-63開進四中

RKM 会報

2012年 Vol. 6
8月発行

編集・発行：RKM 幹事会
RKM 幹事会事務局：桑水流正邦(くわするまさくに)
〒132-0035 東京都江戸川区平井4-26-9 渡瀬方
メールアドレス：rkm634-all-owner@yahooogroups.jp

100年史プロジェクト積立金も20万円となりました。また、体育館の床張替工事対応としての「学園100周年記念寄付金」も目標の100万円を上回る110万円を集めることができ、学園に寄付したことが報告されました。ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。最後に36期久我昭雄新会長のご挨拶と新幹事団の紹介が行われ総会の部が無事終了しました。懇親会の部は、23期黒板行二さんの乾杯の音頭で幕を開け、28期西室泰三さん、中学コーチの83期菅原超さん等の話に耳を傾けるとともに、同世代・世代を超えた歓談の輪があらちちらで広がりました。

100周年記念活動

懇親会の場では、昨年発足させた「RKM100年史発刊プロジェクト(RKMアーカイブ構想)」について、プロジェクト推進委員長

ならびに61期桑田仁さんから進捗状況が報告されました。また、会場に貼られた模造紙に、「合宿した場所」や「フォーメーション名」などを書き込んでもらうようにしたところ、年配OB同士が楽しんで思い出しながら書き込んでいるのを興味深げにみつめる若手の姿もあり、これを話題にした交流も活発になりました。今後、期ごとに座談会などを開催し、このような記録・記憶も残していきたいと思っておりますので会員各位のご協力と積極的な参加をよろしく願います。

次回総会予定

次回総会は平成25年(2013年)6月上旬を予定しています。詳細が決定次第、RKMホームページおよびメールでお知らせしますので、皆様お誘いあわせの上、ぜひご出席ください。



1: 集合写真
2: 35期吉澤氏のドリブル
3: 28期西室氏スピーチ
4: 30期近辺
5: 模造紙への書き込み
6: 山崎先生を囲む

RKM会長退任の御挨拶

32期 吉澤 正

大澤茂樹元会長を引き継ぎ、この3年間会長を務めさせていただきましたが、2010年の暮れ以来体調を崩し、とくに昨年12月からは慶應義塾病院で3カ月近く、本年2月からは4カ月近く東京医療センターで入院を続けざるを得なくなり、久我昭雄副会長に会長代行をお願いしてきました。

大澤元会長からは、若い世代の会員も増えたこともあり、80年・400人の会員と輝かしい伝統をもつRKMについて、しっかりと運営体制を造り、伝統を引き継いでほしいとの依頼を受けました。そこで、2009年には久我副会長、畑正木幹事長を中心に、それぞれの得意技を持った幹事を選んで、会報やメール通信などのコミュニケーションシステム、会費徴収と会計システム、総会・ホームカミングデイ・正月集会行事など、組織としての基盤を整え、わずかながら現役への資金的支援と応援の仕組みを動かすことができるようになりました。これらは会長自身としても大きな喜びでした。その後は、40期代、50期代、60期代、70期代とそれぞれの代からの幹事を増やし、自ら進んで企画を提案してくれるようになりました。いまではRKM100年史発刊プロジェクト（RKMアーカイ

プロジェクト）を開始するなど、活発な活動が期待されますが、80歳の幅のある会員を擁する素晴らしい伝統をもつRKMを維持されるように祈っています。

最後になりますが、RKM幹事ををはじめ、RKMを支えてくださった多くの関係者の方々、若い人の元気な試合を楽しませてくれた現役の諸君、そして山崎コーチと中学チームの歴代のコーチの方々に、心より感謝を申し上げ、退任の御挨拶といたします。

RKM会長就任の御挨拶

36期 久我 昭雄



36期、昭和37年卒の久我でございます。卒業して、RKMの会員に加えられてから、今年でちょうど50年になります。

武蔵中学に入学して、バスケット部に入部してから6年間の現役時代は、中学のコーチだった大塚さん、高校時代の畑先生を始め、直接バスケットを教えてくださいました。合宿・遠征のために寄付などの支援をいただいた方々、実に

たくさん先輩のお世話になって、バスケットを続けてまいりました。そのご恩は先輩である現役に返したいと思つて、RKMのお手伝いをしてみたいと思つて、歴代の会長瀬古さんや大沢さん、前会長の吉澤さんのリードの下で、近年活動がとみに活発になってきたと思います。

ホームページやメール、会報発行などによる情報の発信、会費納入の拡大、RKM100年の記念事業準備と資料の収集など、幹事会の諸君の知恵と努力が実を結びつつあります。今後、現役の部活動の支援がさらに拡大していくつて、その結果、現役の部員諸君がRKMの存在を身近に感じ、卒業後積極的にこの会に参加してくるという環境をめざして、幹事全員で努力していきたいと思つています。皆様のお力添えをお願いします。

前会長の吉澤さんは、武蔵の同窓会の会長も兼務され、お忙しい中で我々をリードしていただき大変感謝しています。病を克服され、お元気になられることをお祈りして、ご挨拶を終わります。

現役活動報告

体育科・高校コーチ
山崎 正晴

【現役支援金の使途】

本年度も支援金を頂戴し選手一同大変感謝しております。今回の支援金は、申し訳ありませんがス

RKMのユニホームを作りました

83期 菅原 超

navcd.211@gmail.com
※RKM幹事会までご連絡いただければ、菅原君に取次ぎます。



「RKM100年史」アーカイブプロジェクト活動状況報告

48期 竹原徹雄・福本淳一

昨年度の総会でご承認いただきました、「RKM100年史」発刊プロジェクト（RKMアーカイブプロジェクト）の1年間の進捗状況についてご報告いたします。

すでにご案内のとおり、RKM100周年となる2027年までの準備期間15年を3期間に区切り、最初の5年は「資料の把握・収集・分類・整理」に重点を置いて活動します。

まず、11年9月22日の幹事会において、この重点活動と「アーカイブ構想」について論議し、それ

トックさせて頂き、高校・中学2チームのユニフォーム代に当てさせていただきますと考えています。

【現役の近況】

高校3年生を中心としたチームは6月のインターハイ予選で敗退し解散、現在は高校2年生を最上級生として高校1年生、中学3年生の3学年で活動を始めています。昨年のチームと比べて身長が低く、180cmを超える選手がいません。また得点力に信頼性が乏しく頭が痛い次第です。ただ現在のスタミナを考えると昨年のスタートより高いと感じています。また中3の数は高校生のトップと肩を並べるぐらいの力を持っているものもいます。この点をチームビルディングの核にするつもりでいます。得点力が無いので数少ないスコアをうまく使っていきたいと考えています。夏休み、たつぷりトレーニングさせて、いい結果をお伝え出来るようがんばります。

最後になりましたが、高校3年生は部活動を全うし、勉強に励む夏となりました。新人戦、関東大会予選、全国大会予選と応援に足をお運びいただきまして生徒共々感謝しております。今後とも変わらずご声援をお願いいたします。

新会員

86期チーム紹介

全員で守って全員で攻める。バランスのとれた、とにかく「走る」



4 宇野
5 松本
6 白田
7 上野
8 三宅
9 小野寺

(1) 資料および話題の豊富な重鎮OBを先行ターゲットとする
(2) 訪問してお話を伺いながらその場でデジタル化してしまう
↓お話を伺いながら、その資料の由来や提供者の思いをきちんと伝える

(3) これをシリーズ化して配信し、情報・資料提供の活性化につなげる
(4) アーカイブデータベースをもとにアライングシートを作成し、ばらつきをなくす

(5) これをやるために、デジタルチームとインタビュチームの編成が必要

(6) デジタル化の画像データベイスはスカイドライブ上に置く
等の方針を固めました。

総会前の5月14日には、アフター50年史時代の丁度真ん中に位置する67期期幹事の太田垣さんをいれてミーティングを行い、若手OBの観点からの情報収集テーマについて協議しました。具体的なテーマで挙げられたものは、

(1) 畑公と山崎先生がどのようにオーバーラップしているか追究してみよう
・・・境目は73期としていたが本当か、きちっとした境目があるのか、フェードアウト、フェードインなどではないか・・・本阿弥さん(69期)が事実を最もよく知っているキーマンなのは？

(2) 各時代(期)のチームの特徴をあつめる
・体格情報、個性的なメンバー情

チームです。一試合通してオールコートプレスでボールを追い続け、例えばボールがとれなくても相手にプレッシャーをかけ続けます。相手の足を止めて最後には走り勝つバスケットをします。

リーダーシップがあり、内外どこからでも点が取れるキャプテンの宇野、献身的なDFでチームを盛り上げる副キャプテンの松本を中心に個性溢れるメンバーが揃っています。フリーのシューターは確実に決めるシューター白田、中学途中入部から成長著しい上野と小野寺はチームに欠かせない存在になりました。高2でサッカ部から転部した三宅は、ずば抜けた身体能力でチームの大事な戦力になりました。総勢六人と少ないですが、個々の力を合わせ、下級生の力もあり、都32に入る強いチームになりました(78期 木本 健一)。

報というのはやはり大変興味深い
・「都大会ベスト16」というのはアフター50年史時代としては、重要なメルクマールとなり得る
(3) 合宿場所の移り変わりを集めると、時代の特徴が出てくるだろう

(4) フォーマーシヨンの話がやはり最も面白い
・・・チームの特徴やルール改訂によって、フォーマーシヨンは世代・期によって異なると思うが、離れた期でも共通のフォーマーシヨンがあるかどうか、興味深いテーマである。

このようなアイデアを基に、6月12日の総会では参加したOBに「合宿場所」・「フォーマーシヨン名」・「チームで一番背の高い人」などについて実際に模造紙に書いてもらいました。

その結果、「合宿場所」では、校内双桂寮・秋田(大曲)・松本・新潟・日立国分・日立戸塚などが書きあげられました。また、模造紙の前で先輩・後輩が一緒になって、活発に思い出を語りあうなど、思わぬ派生効果が生まれました。

以上が、この1年間の活動の概要です。プロジェクトチームとしては引き続き上記のような進め方をしていきますので、皆さまの積極的な参加をよろしく願っています。なお、今後はアーカイブ通信(仮称)を年1〜2回発行し、活動状況を継続してご報告する予定です。

2012年度ホームカミングデーのご案内

今年度の同窓会主催のホームカミングデーは、9月15日(土)午後1時30分から開催されます。

RKMでは高中体育館で2時～4時に現役との交流試合、その後恒例のフリースロー大会(賞品はお楽しみ・・・)を行い、4時半ごろの解散を予定しています。現役と互角に動き回れる若手OBの参加を期待しています。また、フリースロー大会のみの参加も歓迎します。改修されたコートデザイン(ホームカミングデー)の体育館を覗きに、またボールの感触を懐かしみに同期の方をお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

尚、並行して1時半～4時に、高中視聴覚教室にて35期・吉野忠彦氏(元興銀、日本エラストニア協会会長、ルクセンブルク名誉副領事)による『命のピザ』(杉原千畝とユダヤ人)の講演があります。さらに、4時半から6時半には、高中図書館棟1Fにて各部合同懇親会が開催されますので案内いたします。(会費:75期まで4千円、76期以降3千円、学生2千円)

からは病院内を84歩歩く事とし、時には病院の中を早足で歩くなど注意を受けたりしながら3週間の予定を18日で退院した。

然し驚くべき変化は退院後起こった。何しろ食物がうまく喉を通らない。腸ろうも外したので栄養補給が出来ない。何とか食べられる物を選びムリヤリ呑み込んでもお腹が悲鳴をあげる。体重はミルミル減って88↓70kgを割り、下がり続けた。然し歩けるようになったので4月からゴルフを始めた。フラフラしながら9ホールを歩くことから始め、5月には片山杯(季美の森GC)に出て昼食も喉をよく通らない状態で86で回った。稀有の事であった。

7月からテニスを始めたが体重は63kg迄落ちサーブの度に上を見上げると目が廻った。今も当時のテニス仲間と話すとき「印南さんはもうダメだと思った。良く生き返ったよ」と冷やかされる。

8月からバスケットに取組んだ。ナメクジ走法は一応身につく。若干は走れるようになっていた。ゲームに出てシュートを決める事を目指した。バスケットのコートは縦28m、両チームが行ったり来たりしてゲームを行うのでまず走らなければゲームに入れない。計算すると大体30秒で1往復だから5分走ると10往復でシュート機会はチームとして10回、その内4回は私がシュートをして2回入れる事(4得点)を目標とした。

7月に幹事会よりホームカミングデーのご案内を出したところ、32期印南氏より、ホームカミングデーでバスケットボールをプレーできる喜びを綴った文章を寄稿いただきました。ここに紹介いたします。

特別寄稿 ホームカミングデー のバスケット帰り

32期 印南文雄

我が母校武蔵高校にはホームカミングデー(HCD)という良い行事がある。毎年9月母校に帰り高校時代所属した部活動で現役・OBとの交流を計るというもので30年以上も続いている。私も東京にいる時は毎年参加し、ユニフォームに着替え体育館に立ちバスケットの雰囲気に入る。中でも楽しみは中学生との交流試合に出てゲームをしたという喜びを満喫することであった。ところがその楽しみを断たれるような事件が起こった。然も3年間に2度も!! 本文はその苦しい局面をRKM(籠球武蔵)の仲間に救われなんとか復帰できた私の体験談である。

目標達成の第一歩として先ず5分間で500m走れる体力を作った。シュートはジャンプシュートは身体が浮かび上がらない。やむなくドリブルカットインを狙う事とし、フリースローラインで球を受けフェイントをかけドリブルシュートをする練習を繰り返した。練習場は所属しているひかりテニスクラブの壁打ち。壁は25cmのモルタルを重ねるので13段目の5cm上(3m5cm)をリングと見なした。8月の炎天下テニスの壁打ちで1人バスケットの真似事をしてる姿を見たテニス仲間から「一体何をやっているの」と散々冷やかされた。

ところが結果はついてくるもので、平成21年9月のHCDのゲームで私は5分間出場し4得点をあげた。フリースローは100本投げて58本入った。まさに快拳であった。11月女房を連れて長野県佐久の畑先生のお墓へ報告に行った。有名なお墓の記念石へはばつたら頑張れーの語録の前で、先生、頑張りましたよ!!と報告した時は胸がつまった。

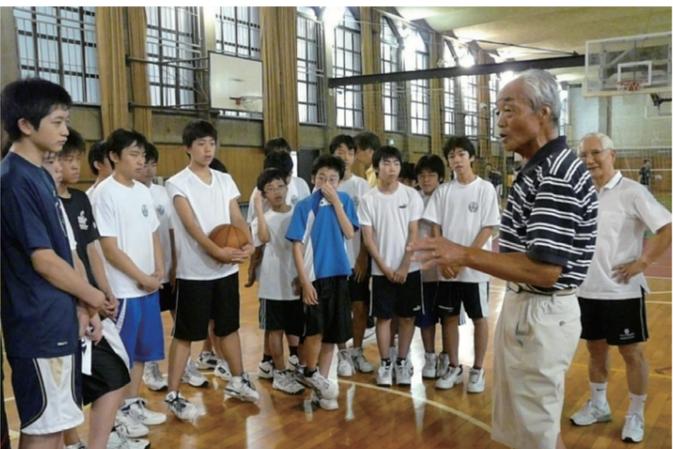
2度の危機の時もうこれでバスケットは出来ないかなと不安がぎったが、幸いRKMの良き仲間が救われ何とか元の生活に戻れたのは望外の幸せというもので武藤君・池田君には感謝の気持ちを抑えられない。又同時に一寸歩くと息切れする

5年前の大晦日、恒例の年末大掃除の最後で腰がギクツとなった。例のギクツリ腰と思ひ新年を迎えファミリーで初詣に出かけたが50m位歩くともう進めない。坐ると何でもない。理由が分からず休み明けに調べてもらうと脊柱管狭窄(腰の骨がズレて直立すると神経が骨に当り痛む)という事で直ちに治療を始めたが全く改善しない。

3か月近く何もできない状態が続き、たまりかねてRKM後輩の池田康夫君(36期、当時慶應病院長)に「もう一度バスケットの出来る身体にしてくれ」と頼むと直ぐ「腰に強い先生を紹介しましょう」と千葉裕先生を紹介され4月即入院となった。入院後も種々治療するも改善せず手術しかないと思ひ先生に再三手術して欲しいとお願いした。当時の脊柱管狭窄の手術は大事で、骨の中で神経が当たるので骨の内側を削って広げる必要があるが、骨はトンネルになっていて外から削りようがなく、やむなく骨を一旦外して中を削り戻すという作業が必要で、術後安定するまで2〜3年かかるといわれていた。ところが慶應大学では骨を取り外さず上から切つて左右に広げ中を削った後また合わせる「縦割法」手術を開発し短期間で安定できる新技術があった。先生は当初手術迄しなくてもと渋っていたが最終的には早く決着をつけてほしい!という私の希望

中、30m・50mと目標を上げて少しずつ走る練習を続けると、何とか500m走れるようになった時は畑公の言葉が支えとなったような気がした。今私は72才、12才でバスケットを始め60年となった。今年も桑水流君(RKM47期)からHCDの案内を貰い又コートに立つてバスケットを楽しみ、RKMという良き仲間・キャプテン吉澤正君と同期6人(先輩・後輩に支えられた得難い体験に満ちたバスケット人生をかみしめたいと思っている。

(平成24年8月記)



写真はいずれも平成21年度ホームカミングデーでの印南氏



を受け入れ平成19年5月末手術が実施された(全身麻酔、2時間、8針)。

結果は大成功で翌日はもう何ともない。様子を見て来てくれた佐室瑞穂君(32期同期)と昼飯を食いにいっても何事もなく、彼は納得のいかない顔であったが私も全く信じられなかった。まさに、神の手!であった。

旬日をおかずに退院したが、その時の先生の注意は「跳んだりねたりは絶対ダメ、回転運動は強くなければ良い」との事であった。それを受け歩くことから始め2ヵ月後恐る恐るゴルフを始めた。腰に負担をかけないように手打ちショットにした。9月のHCDに備え走る練習も少しずつ始めた。跳んだりねたりしない走り方を考え、ナメクジ走法、踵を地面から離さず上下運動の少ない走りーを心がけテニスにも応用した。夏場を乗り切り新走法でかなり走れるようになったので9月のHCDにこわごわ出場しおっかなびっくりで出たゲームで仲間の支援バスにも恵まれ5分間のプレーで4得点をあげた。又、100本フリースローは60本入った。

とにかく復帰は出来たという満足感は強く、心の中で快哉を叫んだ。池田君にもお礼と感謝の報告をして喜んでもらったが、千葉先生からは「ムチャはいけません」とたしなめられた。

翌年秋に2回目の事件が起きた。定期健診で胃の内視鏡検査を受けると、食道の入口に何かありますよ、といわれ仰天した。直ぐに武藤徹一郎君(RKM31期、癌研有明名誉院長)に連絡すると、直ぐ来なさい、といわれ食道癌専門の山田和彦先生を紹介され、検査の結果初期ではあるが悪性との事、武藤君の「悪い物はとった方が良い」との一言で私も同意し山田先生に手術をお願いした。その時は腫瘍1個をとるのだと思っていたが、よく聞いてみると食道全部を切除するのだと分かった時はもう遅かった。自分のノーテンキに呆れるばかりだった。

食道は喉と胃をつなぐ細い管(25cm位)、飲食したものを胃に送り、同時に逆流防止の役目を負っている。食道を切除すると25cmの空間が出来ることが埋める為に胃を引張って喉につなげる必要がある。平成21年1月手術が行われたが13時間・80ホッチキス(針)、全身麻酔の大手術であった。特に通常8〜10時間といわれる手術時間が長かったのは、私の胸郭が非常に大きく胃を引張っても喉に届かない。散々引張られたあけくやつと繋がったとの事で先生も大変だった。最初は水も飲めない状態から回復治療が始まったが意外にも体面では大きな変化は感じられなかった。これは腸ろうー栄養分を直接体内に取入れるーのおかげで、歩けるようになって